

HP Anywhere IDE

Windows / Mac OS X

ソフトウェアバージョン: 10.10

開発者ガイド (コマンドラインツール)

ドキュメントリリース日: 2013年12月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2013年12月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2012 - 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passportのログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

開発者ガイド (コマンドラインツール)	1
目次	5
コマンドラインツール	6
構文の使用方法	7
アプリの開発ライフサイクル例	10

コマンドラインツール

HP Anywhere コマンドラインツールでは、WindowsやMac上でのHP Anywhereアプリの開発と、お気に入りのIDEを使用したソースコードの編集を並行して行えます。アプリプロジェクトの作成、構築、およびデプロイのほか、コマンドラインからのHP Anywhereサーバーの起動と停止が行えます。

前提条件

コンピューターに以下をインストールしておく必要があります。

- [JDK 1.7以降](#)
- [Maven 3.0.4以降](#)
- [Google Chrome](#)
- [Node.js](#)

HP Anywhere コマンドラインツールをインストールするには、次の手順を実行します。

1. [Developer Zone](#) から**HP Anywhere コマンドラインツール**の.zipファイルをダウンロードします。
2. コンピューター上の使いやすい場所に.zipファイルの内容を解凍します。
3. コンピューター上でM2_HOMEとJAVA_HOMEに定義されている環境変数を使用する場合は、次のステップに進みます。
使用しない場合は、解凍した.zipファイルのフォルダー内で**setEnv.cmd** (Windows) または**setEnv.sh** (Mac) を探して開き、次の環境変数を設定します。
 - **set M2_HOME=<Mavenインストールフォルダーのパス>**
例: M2_HOME=C:\hp\HPAnywhere\apache-maven-3.0.4を設定します
 - **set JAVA_HOME=<JDKインストールフォルダーのパス>**
例: JAVA_HOME=C:\dev\jdk1.7.0を設定します
4. コンピューター上で**PATH**システム変数を編集し、上記ステップ2で.zipファイルを解凍したフォルダーのパスを追加します。

HP Anywhere コマンドラインツールが正しく構成されていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. コマンドライン (Windows) またはターミナル (Mac) を開きます。
2. 次の手順を実行します。
 - **Windows:** `hpa.cmd` を実行します。
 - **Mac:**
 - i. `chmod +x <hpa.shのパス>`を実行します。
 - ii. `hpa.sh`を実行します。
3. コマンドが認識されていることを出力で確認します。

注: HP Anywhere IDE (EclipseまたはIntelliJ IDEA) のバージョン10.02を使用して開発されたアプリを使用するには、コマンドラインツールを使用するコンピューター上で次のコマンドを1回実行します。

```
mvn compile -Ddeploy-miniapp=true
```

これにより、アプリを構築してローカルHP Anywhereサーバーにデプロイし、シミュレーターを開いてアプリを検証できます。詳細については、「[アプリの開発ライフサイクル例](#)」(10ページ)を参照してください。

構文の使用法

<code>-build</code>	HP Anywhereプロジェクトをデプロイ可能な.zipファイルに構築します。このファイルは、プロジェクトフォルダーから実行する必要があります。
---------------------	---

<p>-create <テンプレートID> <アプリ名> <パッケージ> <フォームファクター></p>	<p>HP Anywhereスタータープロジェクトを現在のフォルダーに作成します。</p> <p>このコマンドには、次の引数をオプションとして指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• <テンプレートID>: 利用可能なテンプレートの1つ。(すべてのテンプレートを確認するには-listTemplateを使用します。)• <アプリ名>: アプリの名前 (任意のテキスト)。英数字のみ使用します。• <パッケージ>: Javaリソースを保存するJava/パッケージ。• <フォームファクター>: このプロジェクトでサポートされているフォームファクター。可能なオプション: desktop、smartphone、およびtabletをスペースなしのカンマで区切って任意に組み合わせられます。 <p>例:</p> <pre>hpa.cmd -create blank myAppName com.my.package smartphone,desktop</pre> <pre>hpa.sh -create my-report myAppName com.my.package smartphone,tablet</pre>
<p>-deploy <full></p>	<p>HP Anywhereアプリの.zipファイルをローカルHP Anywhereサーバーにデプロイします。このファイルは、プロジェクトフォルダーから実行する必要があります。</p> <p>このコマンドには、次の引数をオプションとして指定できます。</p> <p>full: アプリの構築とデプロイを行い、ローカルHP Anywhereサーバー上の構成ファイルを更新します。設定ファイルの詳細については、http://developer.hpanywhere.com/api-reference/のConfigurationセクションを参照してください。</p> <p>既定: 構成ファイルを更新しないでアプリをデプロイします。(b-buildの後にものみ使用します。)</p> <p>例:</p> <pre>-deploy</pre> <pre>-deploy full</pre>

<p>-listTemplates</p>	<p>利用可能なHP Anywhereテンプレートプロジェクトの一覧を表示します。</p> <p>現在サポートされているテンプレートは次のとおりです。</p> <p>blank: アプリケーション内容を含まない、プロジェクトフォルダー構造のみのHP Anywhereスタータープロジェクトです。</p> <p>hello-world-angular: Angularフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>hello-world-enyo: Enyoフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>hello-world-jqm: JQMフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>hello-world: JavaScriptとHTMLコードからなるネイティブフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。</p> <p>hello-world-sencha: Sencha Touchフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>my-report-angular: Angularフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>my-report-enyo: Enyoフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>my-report-jqm: JQMフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p> <p>my-report: JavaScriptとHTMLコードからなるネイティブフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。</p> <p>my-report-sencha: Sencha Touchフレームワークを使用してアプリを生成するHP Anywhereスタータープロジェクトです。タブレットやスマートフォン用のプロジェクトです。</p>
<p>-removeAllApps</p>	<p>デプロイ済みのアプリと構成ファイルをローカルHP Anywhereサーバーからすべて削除します。</p>
<p>-simulator</p>	<p>Google ChromeブラウザーでHP Anywhereシミュレーターを開きます。</p>
<p>-start</p>	<p>ローカルHP Anywhereサーバーを起動します。</p>

-status	ローカルHP Anywhereサーバーのステータス(実行中または停止中)を問い合わせます。
-stop	ローカルHP Anywhereサーバーを停止します。

ヒント: 上の表のコマンドには、いずれも**-verbose**を追加して、そのコマンドのデバッグメッセージを表示できます。例:
hpa.cmd -create blank myAppName com.my.package tablet -verbose
hpa.sh -create blank myAppName com.my.package tablet -verbose

アプリの開発ライフサイクル例

アプリの開発ライフサイクルの例を次の表に示します。

1	実行するステップ	ローカルHP Anywhereサーバーを起動します。
	使用するコマンド	hpa.cmd -start
	出力	ローカルHP Anywhereサーバーがバックグラウンドで起動します。サーバーステータスの問い合わせは、次のコマンドで行えます。 hpa -status or hpa.sh -status

2	実行するステップ	<p>アプリプロジェクトをテンプレートから作成します。</p> <p>アプリは、スマートフォンフォームファクターをサポートするmy-report-angularテンプレートに基づいて作成されます。</p>
	使用するコマンド	<p>Windows:</p> <pre>hpa -create my-report-angular myApp com.my.app smartphone</pre> <p>Mac:</p> <pre>hpa.sh -create my-report-angular myApp com.my.app smartphone</pre>
	出力	<pre>C:\Users\Sami\projects>hpa -create blank myApp com.my.app smartphone</pre> <p>Creating blank project at:C:\Users\Sami\projects\myApp</p> <p>Configuring app...</p> <p>Project created successfully.</p> <p>What's next?</p> <p>You can build an archive (.zip) that is ready for deployment by running:</p> <pre>cd myApp && hpa.cmd -build</pre> <p>(上記は2つのコマンドが&&で区切られています。)</p>
3	実行するステップ	ソースコードを編集します。任意のIDEで行います。
	使用するコマンド	--
	出力	--

4	実行するステップ	プロジェクトを構築します。必ずアプリプロジェクトのフォルダーから実行してください。すぐにデプロイできるアーカイブファイル(.zip)が作成されます。
	使用するコマンド	Windows: hpa -build Mac: hpa.sh -build
	出力	C:\Users\Sam\projects>cd myApp && hpa.cmd -build Building app.Note:This may take a few minutes to fetch Maven dependencies the first time you build your app. Your app is located in:C:\Users\Sam\projects\myApp\target\myApp-cp.zip Project created successfully. What's next? You can deploy the app to your local HP Anywhere server by running: hpa.cmd -deploy
5	実行するステップ	アプリプロジェクトをHP Anywhereサーバーにデプロイします。必ずアプリプロジェクトのフォルダーから実行してください。
	使用するコマンド	Windows: hpa -deploy Mac: hpa.sh -deploy
	出力	C:\Users\Sami\projects\myApp>hpa.cmd -deploy Deploying app to the HP Anywhere server What's next? You can open HP Anywhere Simulator by running: hpa.cmd -simulator

6	実行するステップ	アプリをHP Anywhereシミュレーターに表示します。必ずアプリプロジェクトのフォルダーから実行してください。
	使用するコマンド	Windows: <code>hpa -simulator</code> Mac: <code>hpa.sh -simulator</code>
	出力	アプリがHP Anywhereシミュレーターに表示されます。

